

『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 立花 克樹

作品 1

大学の恩師は、私に「大きな木を彫ったら？」と、アドバイスしてくださいました。



題名：「きのとんねる」

素材：クス

サイズ：120cm×240cm×180cm

最初は30cm程度の角材。それが直径50cmの丸太へ。次第に直径1mを越え、長さも3mほどに。チェーンブロックもない広場で、仲間とテコで大木を動かし、朝から晩までひたすらチェーンソーを振り回していました。「私を変えてくれた作品」一つ目は、「木のトンネルシリーズ」です。

木材加工は、基本的に木口から切削することはないのですが、このシリーズはすべて木口に刃を入れます。彫り進めたら、体ごと丸太の内部に侵入。ヘッドライトを付けることもありました。まさにトンネル工事。体中にクスの樹液を浴びるので、私自身もクスの香りをまとう男に仕上がっていました。

作品は佐賀市、大川市、宮崎市などに遊具として設置されています。

作品 2

二つ目は、2008年に初めて新作家賞をいただいた作品です。



題名：「life on the ground」

素材：クス

サイズ：90cm×200cm×90cm

それまで丸太という「円筒のフォルム」に固執していましたが、「円筒でない木材」に着目することになりました。家具製造で有名な福岡県の大川市。クス専門の市場によく足を運びました。市場には、枝が多すぎたり、規格に少し足りなかったりするなど、家具材に向かない丸太もあります。その多くは、どんなに見事な大木でも細かく裁断され、チップ合板の材料となるのです。枝が多く、カットされた大木の一部が転がっていました。円筒ではなくなったそのフォルムを生かし、新しい挑戦が始まりました。九州から立体作品を運搬することは、とてもたいへんなことです。毎回、お金と時間をかけ、搬入を迎えていました。このときは、自宅アトリエに鉄道コンテナを呼び、運搬しました。搬入口でコンテナの扉が開いたとき、生乾きで4日間西日本を旅してきた作品は、蒸されていていい感じに乾燥していました。

作品3

最後は、2012年にボリビアの国際彫刻シンポジウムに参加した時の作品です。



題名：「life 2012」

素材：アルガロポ

サイズ：80cm×240cm×80cm

新制作を觀に来られたボリビア在住の彫刻家フアンさんのお誘いを受け、10日間現地制作しました。アルガロポという、南米特有のマメ科の大木でした。マメ科の木材はとにかく固いですが、赤黒く、研磨すると美しく仕上がります。鑿と鉋を持ち込んでいたので、刃物で丁寧に仕上げました。日本の繊細な刃物に、他国の彫刻家たちは興味津々でした。

現地アシスタントもついてくれました。英語も通じない環境で、説明し、指示を出すのは大変でしたが、有意義な時間でした。10日間もの間、作品を作り上げることにのみに集中させていただけたことは、この上ない喜びがありました。現地スタッフの方々には、心の底から感謝しています。



- 1979年 宮崎市生まれ、現在宮崎市在住
- 2002年 渡欧、ヘルシンキ環境造形展覧会
- 2006年 宮崎県展 特選
- 2007年 個展
- 2008年 新制作展 新作家賞
- 2009年 新制作展 新作家賞
- 2011年 会員推挙
- 2012年 ポリビア国際彫刻展